

若者は前向きで率直！だから、若者は頼もしい！

HPのメールアイコンから、経済学を学ぶ大学生から次のような初メールが届いた。

【 ある知り合いの方からこのHPを教えてくださいました。

面白い上に勉強にもなるということでしたので、拝見させていただきました。

私事ではございますが、以前から教育に関心があり、将来は教育学研究科に進学しようと考えております。……。

先生の御専門は障害児教育と思われそうですが、教育を学ぶ者として底に流れる「姿勢」は同じであると思い先生のHPを参考にさせていただきました。

教育学というと曖昧模糊としていて、なんとなくつかみ所がないというイメージを持っておりました。

しかし、このHPを拝見し払拭された思いです。

現実を直視し、そこから得られる事象を細かく分析し複眼的に物事を見ていく姿勢が教育を考えていく上で大切であり、それが第一歩なのだと考えさせられました。

複雑な教育上の問題点を単純明快に捉えられ、盲点となる視点からの見解は驚嘆させられるばかりでした。

世間では「ゆとり」「総合的」といった‘口当たりの良い’表現が闊歩する中、現実の問題点を鋭く批判されている点は強く共感いたしました。示唆に富んだ批判は多くの点で触発されました。

今後も更新されていくようなので楽しみにしております。お体にはお気をつけ頑張ってください。

返信いただければ幸いです。

ありがとうございました。】

見知らない、しかも若者から、こうしたメールが届くと、やはり嬉しいものである。若者は前向きで率直！ だから、若者は頼もしい！

単純な自分だけに、これでまたHP上の発信に勇気百倍！

早速、次のように返信した。

【 自分は専門家でも何でもなく、仕事で障害児に係わり、リタイヤ後も障害児問題を通して、「人の生き様」に雑学的に興味旺盛(?)なだけの「ただのおっさん」ですからね(笑)。

これからも若者としての視点から色々刺激をくださいね。

楽しみにメールを待っています。】

(2006年3月27日 記)